

# 桑名市総合医療センターニュース

第0026号 平成26年7月発行

西医療センター

## 新しい専門外来の紹介

頭痛外来（予約制）

毎週金曜日 14:00～16:00  
（一人30分程度）

悲嘆カウンセリング外来（予約制）

毎週金曜日 13:30～15:30

※ご予約は平日14時～17時に受付致します。☎0594-22-7111（代表）  
にお電話いただき、ご希望の外来をお伝えください。

### 頭痛外来を開設しました

桑名西医療センター脳神経外科 村松正俊

突然おこる激しく今まで経験したことのない頭痛を、雷鳴型頭痛といいます。脳卒中であることが多く、とても危険な頭痛ですから救急車を呼ばなければいけません。でもそうそう頻繁に起こるわけではありません。一方、そんなにひどくはないけれどときどき頭痛で仕事を休んでしまう、そのような頭痛を慢性頭痛といいます。慢性頭痛の有病率は40%以上といわれるので、ありふれたものなのですが、その中に脳腫瘍などの恐ろしい疾患が隠れていることがありますし、市販薬でごまかしていると、厄介な薬物乱用頭痛に移行することもあります。

頭痛の分類は多岐にわたり正確な診断は決して容易ではありません。雷鳴型頭痛は2次性頭痛の代表ですし、慢性頭痛は1次性頭痛であることが多いです。お話を聞くだけで診断できる場合もありますが、十分な検査を受けられずに不安を感じている方も多いでしょう。これらをしっかり区別して、あなたにあった治療法を提案する、そんな目的で頭痛外来を開設します。

専門外来は金曜日の14時から16時の間に、おひとり30分程度の診察時間を見込んでいます。したがって予約制で行います。

### 悲嘆カウンセリング外来開設のお知らせ

桑名西医療センター外科 増田亨

大切な家族をなくされた遺族は、喪の課題として、1)喪失の現実を受け入れること。2)悲嘆の痛みを消化していくこと。3)故人のいない世界に適應すること。4)新たな人生を歩み始める途上において、故人との永続的なつながりを見いだすこと。以上の4つの課題を克服して悲嘆を乗り越えていかなければなりません。どれかひとつでも、課題が残ると悲嘆が長期に渡って遺族を苦しめることとなります。今までは、家族の悲嘆の受け入れは、状態が悪くなってうつ状態や複雑悲嘆になってから心療内科を受診するのが一般的でした。

西医療センターでは、いきなり心療内科を受診されるのに抵抗のあるかたでも、悲嘆のこころのケアを受けやすいように悲嘆カウンセリング外来を開く事にしました。上記の、4つの課題を寄り添って越えられるようにお手伝いをさせていただきます。臨床心理士の資格のある医師、カウンセリングの資格のある看護師が対応します。（健康保険が適用されます）

毎週 金曜日、13時30分から15時30分まで予約制で行います。

詳細は、桑名西医療センター外科外来までご連絡ください。



地方独立行政法人桑名市総合医療センター

桑名東医療センター ・ 桑名西医療センター ・ 桑名南医療センター

# ●○新しい医師の紹介●○

## <桑名西医療センター>

歯科口腔外科

文 麻美 (むん まみ)

6月から常勤で勤務することになりました文麻美と申します。

地域医療に貢献できるよう、努めていきます。

今後とも、よろしくお願い致します

## <西療センターより>

平成26年6月末をもちまして、外科の橋本清医師が退職（他病院へ異動）致しました。

退職に伴い、7月1日から外科に杉澤文医師と北嶋貴仁医師の2名が着任致しました。

何卒、よろしくお願い致します。

## 活動報告

### 平成26年度第1回桑名地区研修医症例検討会

平成26年6月5日に桑名西医療センターにて、研修医症例検討会を開催しました。症例発表は1年目の研修医2名が行ないました。法人の指導医や地域の先生も参加し、多くの質問やアドバイス等が交わされ、有意義な会となりました。

発表①「食道腺癌の1例」 下村麻里

発表②「病理生検を繰り返し施行しても診断に難渋した自己免疫性膵炎の一例」 渡辺麻里

発表後は、今年度研修を始めた9名の研修医の紹介を行ないました。今後とも、よろしくお願い致します。



### NST院内栄養セミナー

西医療センターNST（栄養サポートチーム）では、主に新人職員を対象とした栄養セミナーを開催致しました。このセミナーは毎年行なっており、今年は、5月9日（金）に桑名東医療センター外科の鈴木秀郎先生、27日（火）に伊賀市立上野総合市民病院外科の寺邊政宏先生を講師に招き、栄養管理について学びました。

NSTメンバーだけではなく、スタッフ全員が栄養管理の重要性を理解し、業務を行えるよう、今後も積極的にNST活動に取り組んでまいります。



### 緩和医療学会で発表しました

神戸国際会議場で開かれた第19回日本緩和医療学会で6月20日に桑名西医療センター緩和ケアチーム増田亨医師が演題：緩和治療対象患者に対して行った心理検査 STAI、BDI-2 の検討を示説で発表しました。不安心理検査の STAI と抑うつ心の心理検査 BDI-2 を 14 例の緩和ケア症例に行った検討で、緩和ケア症例では状態不安の値が有意に高く、うつ心の程度も高いのがわかりました。今後はより深い傾聴と寄り添う姿勢が必要で、チームとして心のケアに努めていきたいと発表しました。心理検査でこの二つを選択した理由と仕事に従事していない人を対照にすべきと言う対照の取り方の質問がありました。心理検査の選択は、質問の数が多すぎない事と有名で汎用されている検査である事から選択した事を答えました。対照の取り方は、STAI のマニュアル 2,200 例の正常群の Data と対比して相違がなかったのをこれを用いたと答えました。

